

- 問1 過去に発生した地震、津波、洪水などの災害情報を後世に伝えるために設置された石碑であり、2019年には国土地理院によって、石碑を模した形の中に縦線が入った図形の地図記号が新たに制定されたものを何と呼ぶか。 (2023年 鳥取県公立入試 類似)
1. 自然災害伝承碑                      2. 万葉歌碑                      3. 忠魂碑                      4. 戦災復興記念碑
- 問2 ある地域の8月の平均気温を調査したところ、都心部を中心として27度の等温線が囲んでおり、その周囲の郊外地域は25度から26度と相対的に低くなっていました。このように、都市中心部の気温が、郊外や周辺部と比較して島のように高くなる現象を何といいますか。 (2014年 愛媛県公立入試 類似)
1. 酸性雨                      2. 砂漠化                      3. 地球温暖化                      4. ヒートアイランド現象
- 問3 火山噴火時の降灰の厚さや噴石の到達範囲などが予測して示されている地図を活用する主な目的として、最も適切なものはどれか。 (2018年 北海道公立入試 類似)
1. 災害発生時の被害を小さくし、住民の安全な避難に役立てる                      2. 地域の特産品や観光名所を紹介し、観光客を誘致する                      3. 鉄道やバスなどの交通網を確認し、最短経路を検索する                      4. 土地の正確な高低差を測量し、建築基準の確認に利用する
- 問4 北海道にある洞爺湖は、過去の激しい火山活動によって形成された円形に近い大規模な窪地に、長い年月をかけて水が溜まることで誕生しました。このような地形の名称として適切なものを答えなさい。 (2019年 静岡県公立入試 類似)
1. 潟湖（ラグーン）                      2. シラス台地                      3. 段丘                      4. カルデラ
- 問5 ある中学生のグループが「防災・安全」をテーマに調べ学習を行いました。その際、京都市内の避難場所や、自然災害が発生した際の被害想定区域、安全な避難経路などを地図上にまとめた資料を活用しました。このような資料の名称として最も適切なものはどれですか。 (2017年 京都府公立入試 類似)
1. 都市計画図                      2. 土地利用図                      3. ハザードマップ                      4. 地形図
- 問6 中部地方にある各県の気候統計を確認すると、ある県では年間の降水量が非常に多い一方で、夏の日照時間が長く、年間の合計日照時間も比較的多いという数値を示しています。このような日本海側の気候の特徴が生じる仕組みを説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 富山県公立入試 類似)
1. 冬は太平洋側から吹く乾燥した季節風が山を越えて吹き下ろし、夏は南東からの季節風が山脈にぶつかって大雨をもたらすため。                      2. 冬はシベリア大陸から吹く湿った北西の季節風が山脈にぶつかって雪を降らせ、夏は高気圧に覆われて晴天の日が多くなるため。                      3. オホーツク海高気圧から吹く冷たく湿った北東の風が、山脈を越える際に乾燥した温風となり、一年中安定した晴天をもたらすため。                      4. 年間を通じて黒潮の上を通る湿った空気が流れ込み、山脈に沿って上昇気流が発生することで、常に降水量と日照時間が並行して増加するため。
- 問7 三重県に位置する地点の統計において、1月の平均気温が約5度、8月の平均気温が約27度であり、6月と9月に降水量の大きなピークが見られる気候パターンがあります。このような特徴を持つ気候区分において、冬の気象状況について述べたものとして適切なものを選びなさい。 (2017年 三重県公立入試 類似)
1. 周囲を山々に囲まれた盆地であるため、放射冷却現象によって冬の冷え込みが厳しく、霧が発生しやすい。                      2. 北西の季節風が山地を越えて吹き込むため、晴天の日が多くなり、空気が乾燥しやすい。                      3. 水分を大量に含んだ季節風が直接吹き込むため、世界でも有数の豪雪地帯となり、晴天の日は非常に少ない。                      4. 暖流である黒潮の影響を強く受けるため、1月の平均気温が15度を下回ることではなく、常夏に近い状態となる。
- 問8 河川の流域を、山間部から平野、そして河口へと順にたどるモデルを想定したとき、山地から平地へと地形が変化する急傾斜の出口付近（谷口）で、農業が発達しやすい理由として最も適切な説明はどれですか。 (2018年 和歌山県公立入試 類似)
1. 運搬されてきた土砂の粒が大きく隙間が多いため、水はけが良いことを利用した果樹栽培が発達しやすい。                      2. 河川の流れが最も遅くなり細かい泥が堆積するため、栄養分が豊富な土壌を利用した稲作が発達しやすい。                      3. 長年の浸食によって周囲より一段高い平坦面となっているため、自然災害に強い住宅地開発が進みやすい。                      4. 海風の影響で砂が堆積して丘のようになっているため、独特の景観を活かした観光業が発達しやすい。
- 問9 九州地方の宮崎平野などで、冬の温暖な気候を利用してピーマンやきゅうりなどを出荷時期を早めて栽培する「促成栽培」が盛んな理由の一つとして、周辺を流れる海流の影響を説明したものを選びなさい。 (2024年 山形県公立入試 類似)
1. 暖流である日本海流（黒潮）が太平洋側を北上しており、冬でも気温が下がりにくく温暖なため。                      2. 寒流である千島海流（親潮）が太平洋側を南下しており、夏でも気温が上がらず涼しいため。                      3. 寒流であるリマン海流が日本海側を南下しており、一年を通じて乾燥した気候が続くため。                      4. 暖流である対馬海流が日本海側を流れており、冬に湿った北西の季節風が吹くため。
- 問10 自然災害による浸水被害を予測し、避難場所を検討する際に、地形図の等高線から読み取れる情報の説明として最も適切なものはどれですか。 (2024年 長崎県公立入試 類似)
1. 等高線の間隔が広い平坦な低地は、河川が氾濫した際に水が溜まりやすく、浸水被害のリスクが高い。                      2. 等高線の数値が大きい地点であれば、河川のすぐ近くであっても浸水の心配は全く考慮しなくてよい。                      3. 等高線が密になっている場所は、土地が平らであることを示しているため、浸水時の避難所に適している。                      4. 地形図に示される等高線は海面からの深さを表すものであるため、洪水のリスクを判断する材料にはならない。
- 問11 ある地域の地形図から読み取った以下の4つの地点のうち、防災上の観点から「避難場所」として最も適切であると判断できる場所はどれですか。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
1. 標高が40mあり、周囲に急な傾斜地が存在しない大きな河川から離れた高台の地点                      2. 等高線が非常に密集している山間部の、急激な斜面に隣接した標高20mの地点                      3. 大きな河川のすぐ近くに位置し、標高が5m程度しかない平坦な地点                      4. 海岸に近く、かつての湿地を埋め立てて作られた標高2m以下の平坦な地点